

## 還相遊戯の実現者

曾我量深

従来、我々は、生が人生の全体であり、死の一念をもって人間の終極であるかのように想つて居たことであつた。

今や、現に靈存したまえる先師を念じつつ、静かに七年の昔を回想する時、奇なる哉、御生前には、死せるが如く静寂にたまはりましたる先生は、滅後にいたりて始めて大なる活動を現わしたまい、しかもその活動は、次第に拡大したまうのである。

生は活動であり、死は静寂である、故に人生は奮闘的でなければならぬ、静寂の人は死せる人である、とは世人の多くが唱うるところである。果して然らば、先生は、御生前には已に死し、死して初めて生きてもつた御方であります。

わが先生は、僅かなる四十一年の休息に依りて、無窮の大奮闘的生活に入りたもうたのである。先生は、誠にわが真宗における死後還相の園林遊戯の実現者であらせらるのである。

今や、生きて死せる我々は、已に死して正に生ける先生に依りて、生死に関する従来の妄想を一掃せねばならぬこととなつたのであります。

『精神界』清沢先生七周忌記念号より

## 精神主義の綱要

金子大栄

精神主義は、無責任主義であるといわれている。けれども、私は思うに、先生の精神主義は、世のいわゆる無責任主義ではなく、全責任ということを味うての上の無責任であると信ずる。

一切の責を自己の責と思え、しかして、その責任をあげて如来に任せよ、これ精神主義の綱要である。

『精神界』清沢先生七周忌記念号より